ちょっと寄り道

ゆかりの埋蔵文化財

古の人々も河川によって造られた地形を上手に利用していました。
遺跡の立地をみるとその生活は川とともにあったことがうかがえます。

①大塚遺跡（現八田御勅使南工業団地）

出土した壺と高坏
（古墳時代前期）

遺跡の中央を流れる旧流路の南北に、古墳時代前期と奈良・平安時代の集落が展開している。古墳時代の住居跡からは甕、壺、高坏など大量の土器が出土した。

A区9号住居跡
（古墳時代前期）

②野牛島西ノ久保遺跡（現八田御勅使南工業団地）

西に大塚遺跡、南に野牛島・大塚遺跡、東に石橋北屋敷遺跡に囲まれた遺跡。古墳時代前期や奈良･平安時代、中世の集落跡。遺跡内の小さな谷底から破片どうしが融着し形が歪んだ須恵器の大甕片が出土し、遺跡周辺に須恵器窯が存在する可能性が指摘されている。また注目される遺構として、炭焼の平窯や和鏡が副葬された土坑墓、中世の道路跡なども発見されている。

炭焼釜跡

土坑墓と副葬
された和鏡

失敗作？の須恵器大甕

コラム Column 能蔵池の赤牛

昔々、野牛島村に結婚を約束したカップルがいました。結婚式がせまりましたが、二人は貧しく、村の人たちに料理をふるまうためのお椀やお膳を用意できず困っていました。結婚式当日の朝、村人の一人が能蔵池に浮かぶお椀やお膳を見つけました。二人は能蔵池の主、赤牛さまが貸してくれたと大喜び。それからというもの村人は赤牛さまからお椀やお膳を借りるようになりました。しかし、ある時お椀を返さない村人がいました。怒った赤牛さまは甘利山の椹池に去り、その後千頭星山の大笹池に移り住んだといいます。

韮崎でもこれと似た赤牛の伝説が伝えられています。椹池の主であるみずち（蛇）が領主の子供を池に引きずり込みました。怒った領主は池を埋め立てます。みずちは赤牛に変化して大笹池に逃げます。さらに能蔵池へ逃げた後赤牛は行方しれずになりました。

二つの昔話の舞台となる三つの池はかつて雨乞いの祈りが捧げられた場所。また、古くは牛や馬が雨乞いの犠牲に捧げられることもありました。二つの物語を解く鍵は「雨乞い」にありそうです。

平成19年度埋蔵文化財保存活用整備補助事業
南アルプス市教育委員会　文化財課
☎055-282-7269

③石橋北屋敷遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

奈良・平安時代の集落および中世の集落、墓域跡。遺跡の北側には、大塚遺跡から続く御勅使川の古い流路跡が見られる。

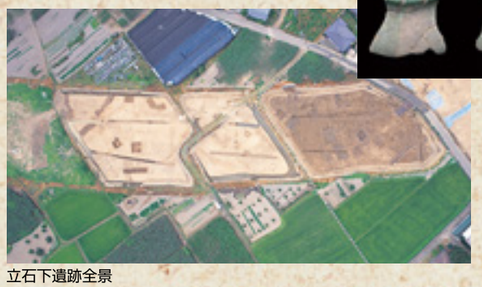
墓（中世）北を枕にしている。かたわらには六道銭が供えられていた。

道路跡（鎌倉時代）両側に溝が掘られている。

⑤立石下遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

平安時代の集落跡。13軒の住居跡や炭焼窯が発見された。

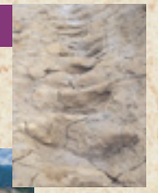
奈良三彩。唐三彩を模して官営の工房で作られた壺の口縁部。



立石下遺跡全景

⑦仲田遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

大塚遺跡から続く御勅使川の旧流路上にある遺跡で、度重なる洪水によって砂礫で埋もれた中世～近世の水田跡が幾層も発見された。



水田に残された足跡

旧諏訪神社から赤山社へ続く参道

水田跡（中世）規則的に足跡が見られる。

⑨百々遺跡（現甲西バイパス・中部横断道）

古代から中世にかけて続いた大集落跡。平安時代では250軒を超える。遺跡の南側は10世紀頃起こった御勅使川南流路の洪水によって被害を受けている。

4体の馬が並んで埋葬されている。遺跡全体では100体を超える馬・牛の骨が出土。

銅製の丸鞆（役人のベルト飾り）や錘など役所の存在を示す遺物が出土した。

④野牛島・大塚遺跡（現市道八田163号線）

出土した土師器
（はじき）の甕と坏

平安時代の集落跡。9軒の住居跡が発見された。住居は竪穴式で、カマドが南東側に造られている。

6号住居跡

⑥榎原・天神遺跡（現八田ふれあい情報館）

平安時代の2軒の住居跡の他、中世の区画溝が発見された。

1号住居カマド跡
（平安時代）
土器をのせる石製の支脚の上に土師器の坏が張り付いて出土した。カマド左側には棚状施設が地山を掘り残して造られている。

榎原・天神遺跡全景
住居跡や区画溝が見られる。

⑧徳永・御崎遺跡（現集合住宅・個人住宅）

御勅使川扇状地を釜無川が削りとってできた崖上にある遺跡。縄文時代後期、古墳時代後期、平安時代と複数の時代に渡る遺跡である。遺跡の北側には中世金丸氏の館跡、長盛院がある。

石皿や磨石などの調理具、磨製石斧、石棒など多数の石器が出土した。

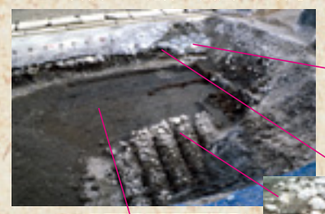
古墳時代後期の住居跡

匙状土製品（縄文時代後期）

敷石住居
（縄文時代後期）

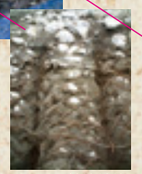
⑩石積出四番堤（浄水場濃縮槽）

発掘調査によって明治～大正時代の石積出四番堤の一部が発見された。石積みの堤体基底底には梯子土台、根固めには木工沈床が用いられ、さらに川表側には鉄線の蛇籠が並べられていた。



石積み堤体

木工沈床



鉄線蛇籠

梯子土台

遺跡で散歩 vol.1

MINAMI-ALPS CITY

ふるさとの歴史を楽しもう

御勅使川（みだいがわ）ゆかりの史跡を歩く

能蔵池の赤牛さま

vol.1

御勅使川（みだいがわ） ゆかりの史跡を歩く

●コースあんない　石積出～湧暇李の里まで　距離10.6km／時間約3時間

①ふるさと文化伝承館（市埋蔵文化財センター） → 1.0km 15分 → ②野牛島バス停 → バス 20分 → ③県道甲斐芦安線（前御勅使川） → バス → ④石積出 → 1.8km 25分 → ⑤水宮神社 → 0.3km 5分 → ⑥矢崎家住宅 → 1.7km 25分 → ⑦徳島堰（小将棋頭） → 1.0km 15分 → ⑧将棋頭（六科水田） → 1.5km 25分 → ⑨御勅使南公園 → 1.2km 20分 → ⑩不連続堤 → 1.0km 15分 → ⑪堀切 → 1.0km 15分 → ⑫能蔵池 → 0.1km 1分 → ①ふるさと文化伝承館（市埋蔵文化財センター）

バス　徒歩

⑤水宮神社（みずみやじんじゃ）

水宮神社は御勅使川扇状地の扇頂部に造られた水波能女命（みずはのめのみこと）を祭神とする水害防護の神社。大正14年の改修では、有野村水下の村々からも寄付が集められた。

④石積出（いしつみだし）

一番堤

石で造られた堤防で、一番堤から五番堤まで残されている。国指定史跡（一～三番）。

御勅使川の本流を高岩の方向（北東）へ向けます。

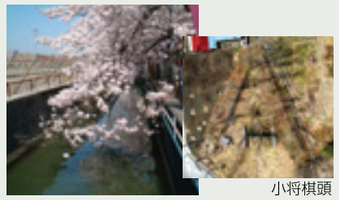
有野の田畑や集落、さらに下流にある21ヶ村を守っていました。

田んぼ　有野集落

⑥矢崎家住宅（やざきけじゅうたく）

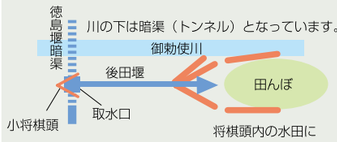
江戸時代前期の建物。甲府盆地西部では最も古い民家で、徳島堰を完成させた矢崎又右衛門のゆかりの家でもある。矢崎氏は江戸時代を通じ有力農民として有野村の名主を勤めていた。

⑦徳島堰と小将棋頭（とくしませぎ　しょうしょうぎがしら）



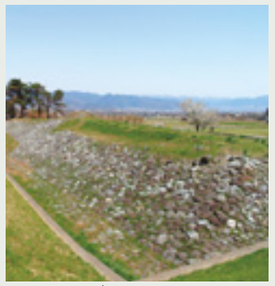
小将棋頭

韮崎市上円井（かみつぶらい）から曲輪田新田まで全長17kmにおよぶ灌漑水路。江戸の商人徳島兵左衛門が考案し工事に取りかかり、後に幕府から命を受けて有野の矢崎又右衛門が寛文10年(1670)に完成させた。この水路によって扇状地上での水田耕作が進んだ。



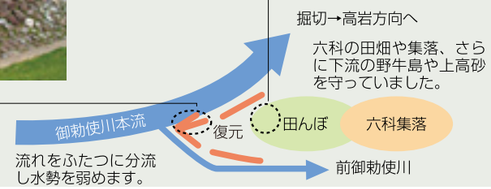
徳島堰から取り入れた水を六科の水田へつなぐのが後田堰。この堰の取水口を小さな将棋頭が守っています。

⑧将棋頭（しょうぎがしら）



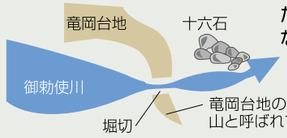
将棋頭に守られた六科の水田風景

将棋の駒の形をした堤防で、現在は北側の堤防のみ復元されている。国指定史跡。



⑪堀切（ほりきり）（切通し）

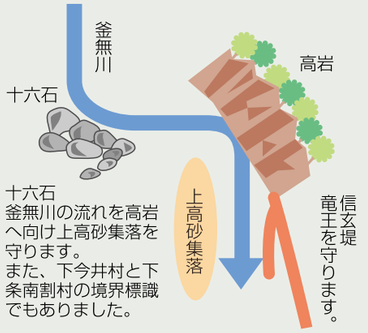
韮崎から続く竜岡台地を信玄が掘り抜いたとの伝承が残る水路。御座田遺跡の調査によって、少なくとも信玄の活躍した時代以前に存在していたことが明らかとなった。



⑫能蔵池（のうぞういけ）

湧き出た御勅使川の伏流水をせき止めて造られたため池。池には赤牛の神様が住むといわれ、赤牛が村人に椀や膳を貸してくれる昔話がいまに伝えられている。

十六石・信玄堤（じゅうろくいし　しんげんづつみ）



十六石
釜無川の流れを高岩へ向け上高砂集落を守ります。
また、下今井村と下条南割村の境界標識でもありました。